

## お知らせ

### 骨年齢読影サービス（軟骨異栄養症を除く）

成長科学協会の研究助成により、骨年齢自動読影システムが完成しました。この方法は、従来の TW2 法などのパターン認識と異なり、第 3 末節骨、第 3 中節骨、第 3 基節骨の主に骨端骨と骨幹端の長さを用いた定量的な方法です。正常小児のレントゲン約 300 枚から作成した回帰式を用いて骨年齢を算出します。まだ、成長障害小児における有用性については詳しくはまだ検討されていませんが、治療のモニターとして従来法と大差ないと考えられます。

骨年齢読影サービスは、新規申請時および治療成績報告時のレントゲン写真に限定させていただきます。読影を依頼する場合は、申請書または治療成績報告書の骨年齢は空欄でかまいません。必ず、レントゲンの返送に必要な切手を貼った返信用封筒を同封して下さい。

撮影条件が悪いと、自動読影出来ない場合がありますので、撮影条件の良い左手の写真を用いて下さい。また、軟骨異栄養症は変形が強いため、自動読影出来ません。

骨年齢読影サービスは、6月15日より受け付けます。

平成 10 年 5 月

成長科学協会